

習得度評価

習得度:◎指導可能 ○実践可能 △習得中

	大項目	小項目	内容	評価
神経発達症群	知的能力障害	患者とのコミュニケーション	患者の人権・人格を尊重しつつ、知的能力障害の原因や発達レベルに応じた対応ができる	
			必要時には視覚支援も取り入れたコミュニケーションを図ることができる	
		家族などとのコミュニケーション	家族などの障害受容過程等を把握し、心理に配慮した声かけや患者への対応ができる	
		口腔と歯の特徴と評価	知的能力障害の種別等（Down症候群、脳性麻痺など）により異なる口腔と歯の特徴を理解して口腔内を観察・評価できる	
		指導と管理	発達レベルに応じた本人・家族等への指導、口腔内状況に応じたケアができる	
	Down症候群	患者とのコミュニケーション	患者の人権・人格を尊重しつつ、発達レベルや頑固な側面に配慮した対応ができる	
			必要時には視覚支援も取り入れたコミュニケーションを図ることができる	
		家族などとのコミュニケーション	家族などの障害受容過程等を把握し、心理に配慮した声かけや患者への対応ができる	
		口腔と歯の特徴と評価	歯列不正や舌突出、歯周病の重症化等の特徴を念頭に置き口腔内を観察・評価できる	
		指導と管理	歯周病原性細菌の早期侵入・定着、早期老化等特有の特徴をふまえ、本人・家族等へのTBIや幼少期からの歯周管理ができる	
		心疾患と内服薬	心疾患の有無と内服・手術等を確認し、抗生剤前投薬・モニター管理等の対応ができる	
	自閉スペクトラム症	患者とのコミュニケーション	必要時には視覚支援も取り入れたコミュニケーションを図ることができる	
			家族などとのコミュニケーション	家族などの障害受容過程等を把握し、心理に配慮した声かけや患者への対応ができる
		口腔と歯の特徴と評価	偏食や反芻によるう蝕等の口腔疾患や自傷行為による外傷などの特徴を念頭に置き、口腔内を観察・評価できる	
		体動のコントロール	切迫性、非代替性、一時性を満たしていることを判断したうえで、患者に適した抑制具の選択や装着、開口器保持を安全で適切に行うことができる	
		薬物的行動調整法	薬物的行動調整法について理解し、器材の準備・静脈確保時の介助・術中の観察・マスクトレーニング等ができる	
		行動変容法	行動変容の方法について理解し、患者に合わせた技法を用いて適応行動を引き出すことができる	
		パニック	不安・感覚過敏等によるパニックへの事前対応およびパニック発生時の対処について、患者に合わせて実施することができる	
		指導と管理	感覚過敏・こだわり等の特徴を理解している	
			脱感作・視覚支援等適切な対応方法を用いて指導することができる	
	食事指導（間食・偏食）	口腔疾患および全身疾患予防につながる食事指導ができる		

習得度評価

習得度:◎指導可能 ○実践可能 △習得中

大項目	小項目	内容	評価	
運動障害	脳性麻痺	患者とのコミュニケーション	非言語的コミュニケーションを含め、患者に合わせた方法で対応することができる	
		家族などとのコミュニケーション	家族などの障害受け入れ状態等、心理に配慮した声かけや患者への対応ができる	
		口腔と歯の特徴と評価	歯の咬耗や歯列不正、歯肉退縮などによりう蝕や歯周病に罹患しやすいことを念頭に置き口腔内を観察・評価できる	
		移乗	不随意運動や異常反射等に配慮して、安全に移乗・姿勢調整をすることができる	
			骨折のリスクを考慮した移乗ができる	
		体動のコントロール	不随意運動の制御や呼吸の安定を図るために適切な体動のコントロールが実施できる	
		薬物的行動調整法	薬物的行動調整法について理解し、器材の準備・静脈確保時の介助・術中の観察等ができる	
		誤飲・誤嚥	処置中の誤飲・誤嚥に注意をはらうことができる	
	指導と管理	患者が使いやすい歯ブラシの工夫や、咬反射や呼吸・誤嚥等に注意した介助磨きの指導が行える		
	脳血管疾患	患者とのコミュニケーション	表情や視線に気を配り、簡単な言葉でゆっくり、はっきりと伝えるなど、患者に合わせた方法で対応ができる	
		家族などとのコミュニケーション	患者の障害、特に高次脳機能障害への家族などの理解・受け入れ状態を考慮しながら、StageIに合わせたケアの計画立案、必要な説明・指導ができる	
		口腔と歯の特徴と評価	患者の感覚障害・運動障害を把握した上で、口腔内を観察・評価できる	
		歩行・移乗	転倒・麻痺に注意し、安全にチェア誘導・移乗ができる	
		記憶障害	障害の特徴を理解した上で、処置後の注意事項やTBI等の指導ができる	
半側無視		障害の特徴を理解した上で、歩行時の注意やTBI等の指導ができる		
全身状態の確認		事前に全身状態を確認し、誤嚥等のリスクに配慮しながらStageIに合わせたアシスタントおよびケアができる		
		事前に内服薬を確認し、副作用等のリスクに配慮しながらアシスタントおよびケアができる		
	処置中に必要なモニターを装着し、管理しながら処置を遂行できる			
	急変時に適切な対応ができる			
指導と管理	麻痺側の食物停滞、口腔乾燥等の特徴を理解し、根面う蝕、歯周病の重症化を考慮した指導や管理ができる			
	セルフケアが可能な患者へは、使いやすい歯ブラシの選択、セルフケアが不十分な者へは家族や介助者へ介助磨き指導を行うことができる			

習得度評価

習得度:◎指導可能 ○実践可能 △習得中

	大項目	小項目	内容	評価
感覚障害	聴覚障害	患者とのコミュニケーション	患者の状況を把握し、環境設定、心理的配慮を行い、筆談、手話、口話、身ぶりなどで十分なコミュニケーションを図り情報提供ができる	
		家族などとのコミュニケーション	家族などの障害受け入れ状態等、心理に配慮した声かけや患者への対応ができる	
		口腔と歯の特徴と評価	歯科保健情報不足による口腔清掃不良、コミュニケーション不足による治療の中断、長期の無受診によるう蝕や歯周病の発症などを念頭に置き口腔内を観察・評価できる	
		待合室から診療室への誘導	患者の正面に立ち目線を合わせるか、軽く肩を叩き誘導することができる	
		歯科診療補助	診療台を動かす際の合図、診療中はTSD法を用いるなどの配慮ができる	
			治療内容は模型や絵などの媒体を用いて説明ができる	
		指導と管理	指導は時間的余裕をもち、イラスト、写真、模型を用いて指導ができる 患者と十分なコミュニケーションを図り歯科管理の必要性を伝え、定期的な管理を行うことができる	
	視覚障害	患者とのコミュニケーション	早期全盲、後期全盲、弱視などの見え方や心理状況を把握したうえで、音声のほか文字、点字、模型などを用いてコミュニケーションを図ることができる	
		家族などとのコミュニケーション	家族などの障害受け入れ状態等、心理に配慮した声かけや患者への対応ができる	
		口腔と歯の特徴と評価	患者自身によるプラーク付着状況の確認及びセルフケアの困難性、転倒や怪我による口腔・顔面の外傷などの状況を把握したうえで、口腔内を観察・評価できる	
		待合室から診療室への誘導	入室前の診療室の環境整備や導入時の声かけができる	
			誘導者は同じ方向を向き患者の半歩程度前に立ち、肘の少し上を握らせるか誘導者の肩に手をかけてもらい導入し、診療台の横に到着後、背もたれを触らせ座らせるなどの配慮ができる	
		歯科診療補助	診療台を動かす際や口の開閉時の声かけなどの配慮ができる	
			治療部位は口腔内で確認させ、治療中はこれから行う内容をわかりやすく説明するなどの配慮をしながらアシストができる スタッフ同士の会話や不必要な音を出さないような配慮ができる	
指導と管理	ブラッシング指導は、視覚障害の既往や過去の指導経験を把握したうえで、手を添えて一緒に磨き、力加減や当て方を体験させ、触覚や聴覚などの視覚以外の感覚を用いて指導することができる			
	口腔内の把握には、大きめの顎模型や患者の口腔内を実際に指で触れて確認させるなどの配慮ができる 定期的な管理の必要性を指導し、継続的な管理ができる			

習得度評価

習得度:◎指導可能 ○実践可能 △習得中

	大項目	小項目	内容	評価
精神および行動の障害	精神疾患	患者とのコミュニケーション	患者の人権を尊重したコミュニケーションを図ることができる	
		口腔と歯の特徴と評価	患者の病態を把握した上で、口腔内を観察・評価できる	
		歩行・移乗	転倒や精神症状に由来する突発的な行動に注意し、安全に診療台への誘導・移乗ができる	
		全身状態の確認	事前に全身状態や精神症状・生活背景を確認し、精神的・肉体的ストレスに配慮したアシスタントおよびケアができる	
			事前に内服薬・検査結果を確認し、副作用等のリスクに配慮しながらアシスタントおよびケアができる	
			処置中に必要なモニターを装着し、管理しながら処置を遂行できる	
			急変時に適切な対応ができる	
		精神症状を考慮した指導と管理	意識レベルや誤嚥性肺炎に注意してケアを遂行することができる	
			患者の精神症状やセルフケア能力に応じたケアおよびTBIができる	
			患者の精神症状や生活背景に応じて、介助者へのTBIができる	
	各患者の精神症状を把握したうえで、口腔清掃不良、口腔乾燥などの特徴を理解し、う蝕、歯周病の重症化予防を考慮した管理ができる			
	認知症	患者とのコミュニケーション	中核症状やBPSDに配慮した対応ができる	
		家族などとのコミュニケーション	家族などの障害受け入れ状態や介護疲れ等の心理面に配慮した対応ができる	
		口腔と歯の特徴と評価	中核症状やBPSDに留意して口腔内を観察・評価できる	
		全身状態の把握	事前に全身状態や精神症状・生活背景を確認し、精神的・肉体的ストレスに配慮したアシスタントおよびケアができる	
			処置中に必要なモニターを装着し、管理しながら処置ができる	
			急変時に適切な対応ができる	
		歩行・移乗	転倒や認知症状に由来する行動や発言に留意し、安全に診療台への誘導・移乗ができる	
食行動の変化		認知症の種類による食行動の変化をふまえ、摂食嚥下機能に合わせた食環境の調整および提案ができる		
指導と管理	患者の中核症状やBPSDに配慮した、ケアおよびTBIができる			
	感覚過敏や原始反射の種類と有無を把握し、介助磨きの指導ができる			

習得度評価

習得度:◎指導可能 ○実践可能 △習得中

	大項目	小項目	内容	評価
神経疾患	てんかん	口腔と歯の特徴と評価	転倒による外傷(歯、舌や口唇の咬傷・裂傷等)、口渇、歯肉増殖症などの特徴を念頭に置き、口腔内を観察・評価できる	
		全身状態の把握	事前に全身状態や発作について確認し、処置中に起こりうる変化に注意しながらアシスタントおよびケアができる	
		発作誘発への対応	音や光、視覚刺激などの発作を誘発させるような行為への配慮をした、アシスタントおよびケアができる	
		発作時の対応	即座に歯科治療を中止し、診療台からの転落防止や周囲への協力依頼など安全を確保することができる	
			装着物、食物、嘔吐物があれば、側臥位にして取り除き、気道を確保することができる	
			発作の開始時間の記録など、発作の状態を経過観察することができる	
			重積発作を疑う場合などはバイタルサインを確認し、急変時に適切な対応ができる	
指導と管理	歯肉増殖症の発生の遅延や重症化予防を考慮した指導や管理ができる			

習得度評価

習得度:◎指導可能 ○実践可能 △習得中

	大項目	小項目	内容	評価
その他の疾患	心疾患	全身状態の確認	事前に全身状態を確認し、処置中に起こりうる変化に注意しながらアシスタントおよびケアができる	
			事前に全身状態を確認し、ペースメーカー・埋め込み型除細動器（ICD）等への影響に配慮しながらアシスタントおよびケアができる	
			事前に内服薬を確認し、副作用等のリスクに配慮しながらアシスタントおよびケアができる	
			処置中に必要なモニターを装着し、管理しながら処置を遂行できる	
			急変時に適切な対応ができる	
	感染予防	事前に全身状態を確認し、感染症特に感染性心内膜炎予防に配慮してアシスタントおよびケアができる		
		歯周病によるリスクを把握し、十分なケアおよびTBI等の指導ができる		
	糖尿病	全身状態の確認	事前に全身状態を確認し、低血糖等処置中に起こりうる問題点に配慮しながらアシスタントおよびケアができる	
			事前に内服薬・検査結果を確認し、感染リスクに配慮しながらアシスタントおよびケアができる	
			急変時に適切な対応ができる	
		口腔と歯の特徴と評価	患者の病態を把握した上で、口腔内を観察・評価できる	
	歯周病管理	歯周病と糖尿病の関わりを理解し、十分なケアおよびTBI・生活指導ができる		
	がん	患者・家族などとのコミュニケーション	患者・家族の「痛み」を理解し、寄り添うことができる	
			Stageに合わせたケアの計画立案、必要な説明・指導ができる	
		口腔と歯の特徴と評価	患者の病態を把握した上で、口腔内を観察・評価できる	
		全身状態の確認	事前に全身状態を確認し、疼痛や全身的な不快感等に注意しながらStageに合わせたアシスタントおよびケアができる	
			事前に病期や治療方針を確認し、精神的ストレスに配慮したアシスタントおよびケアができる	
			事前に内服薬・検査結果を確認し、副作用等のリスクに配慮しながらアシスタントおよびケアができる	
			処置中に必要なモニターを装着し、管理しながら処置を遂行できる	
			急変時に適切な対応ができる	
周術期管理		術前・術後の口腔ケアの必要性について、患者の理解が得られるように説明することができる		
		ケアにより、手術時のトラブル回避・術後の口腔トラブルのリスクが軽減できる		
	化学療法による口腔乾燥や粘膜トラブルに配慮したケアができる			
	放射線治療による唾液腺障害や粘膜トラブルに配慮したケアができる			